

## 横断的 強化軸

# 気候変動対策の主流化の推進:

パリ協定の実施促進支援と開発課題の解決 及び  
気候変動対策の双方に資する (コベネフィット型)  
気候変動対策の実施

## 現状と課題

- アフリカ諸国は気候変動の影響を強く受け、特に適応策の対応が十分でないため気候変動に起因する災害の影響を受ける人口が多い。
- アフリカの温室効果ガス(Greenhouse Gas: GHG)排出割合は、世界の中では比較的少ないが、パリ協定の下では排出削減等の取り組みが求められており、開発途上国もカーボンニュートラルに向けた動きが進んでいる。アフリカにおいても排出削減の重要性が高まる可能性がある。
- GHG排出量が多く、化石燃料への依存度も高い南アフリカ等は緩和策への取組を強化すべき重要国の一つ(ボツワナ、ナミビア等も比較的高い状況)。

## 今後の取り組み方針

### 1) パリ協定の実施促進

気候変動対策の各種計画策定や更新、実施、モニタリング、隔年透明性報告書(BTR)の策定等のサポートを行い、資金・技術・知見等の能力が不十分な途上国の気候変動対策を支援し、持続的に地球規模で気候変動に対応する。

### 2) コベネフィット型気候変動対策

各開発課題の解決(開発便益)を図ると同時に、気候変動対策(気候便益)にも資するコベネフィット(共便益)を実現し、気候変動対策の質・量の両面での拡充を図る。特に、電力・エネルギー、都市開発、運輸交通、森林保全等自然環境保全、農業が重要分野で積極的に対応し、「脱炭素社会への移行」「気候変動に強靭な社会の構築」を意識した活動を行う。

#### アフリカでの活動好事例:

- 森林保全・REDD+(ケニア、エチオピア、カメルーン、マラウイ、コンゴ民、モザンビーク、南部アフリカ4カ国等)
- 天候インデックス保険導入のパイロット事業とレジリエンス強化(エチオピア)
- 地熱開発支援(ケニア)
- JAXAと連携した衛星活用による熱帯林監視
- 気候変動の影響に対応した農業、インフラ整備案件等



## 貢献する SDGs



これまでのJICAの取り組み



森林・自然生態系の保全強化のための能力強化の支援(ケニア)



「オルカリア I 4・5号機地熱発電計画」を通じた再生可能エネルギーの活用に係る支援(ケニア)



気象レーダーシステム整備に係る支援(モーリシャス)



森林コーヒー生産・販売を通じた持続的な森林管理の支援(エチオピア)



給水施設建設と施設管理能力の強化の支援(モザンビーク)